

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

- ▶ 地域創成プログラムの全体像
- ▶ 人材育成
- ▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2007～2009年度 報告書
- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2008年度事業報告書
- ▶ 2007年12月22日 選定記念
キックオフ・シンポジウム
実施報告書

お問い合わせ

2007年度 文部科学省
現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP) 選定

「地域創成プログラム」の実践

～「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流へ～

名古屋大都市圏の
交流ネットワークをめざして。



新着情報

- ▶ 2010.01.26 **New** 現代GP総括シンポジウム「ものづくり/まちづくり ～“やきもの”でつなぐ地域の未来～」開催報告をアップしました。
- ▶ 2010.01.21 **New** 「熱田生涯学習センター連携講座 産地バスツアー」開催報告をアップしました。
- ▶ 2010.01.21 **New** 第10回全国まちづくりカレッジin名古屋「どえりゃ～地域とつながるまちづくり」開催報告をアップしました。

本学の取組の概要

「地域創成プログラム」は地域社会と協働するよき市民、よきビジネスパーソンの育成のために作られました。このプログラムは、その原型を含め、すでに愛知県瀬戸市でのまちづくり活動の中で生かされ、多くの実績を積み重ねてきました。本取組は、本学がキャンパスを設置する瀬戸市と名古屋市の両都市を対象に、このプログラムを「もの・まちづくり（ものづくりの蓄積を生かしたまちづくり）」というテーマで実践し、地域の再生と交流を実現しようとするものです。このプログラムを学ぶことで地域理解を深め、共生の思想を学び、創造する力を身につけます。

経済学基礎知識1000題

文部科学省特色GPに選定

自分発見型学生支援ネットの構築に向けて

文部科学省学生支援GPに選定

Cafe & Bakery

MilePost

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

- ▶ 地域創成プログラムの全体像
- ▶ 人材育成
- ▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2007～2009年度 報告書
- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2008年度事業報告書
- ▶ 2007年12月22日 選定記念
キックオフ・シンポジウム
実施報告書

お問い合わせ

「地域創成プログラム」の実践

～「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流～

現代GPとは？

文部科学省の取組～Good Practice～

● GPとは？

大学・短期大学・高等専門学校等が実施する教育改革の取組の中から、優れたものを選び、支援・情報提供を行うことにより、他の大学等が選ばれた取組を参考にしながら、教育改革に取り組むことを促進し、大学教育改革をすすめています。この「優れた取組」を「Good Practice」と呼び、この言葉を略して、「GP」と呼んでいます。文部科学省では「Good Practice」をキーワードとして、教育方法や教育課程（カリキュラムなど）の工夫改善の取組や、社会からのニーズの強い課題に対応した取組など、大学における学生教育の質の向上を目指す特色のある優れた取組を選び、その取組をサポートしています。これらのサポートのためのプログラムとして、「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」と「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」などを実施しています。

● 現代GPとは？

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」では、国の各種審議会からの提言などをふまえ、社会的要請の強い政策課題に関するテーマを設定し、これに対して各大学、短期大学、高等専門学校が計画している取組の中から、国公私を通じて優れた取組を選び、サポートします。また、選ばれた取組を社会に広く情報提供し、高等教育全体の活性化を促しています。

【2007年度公募のテーマ】

- 地域活性化への貢献（地元型）
- 地域活性化への貢献（広域型） ※本学選定テーマ
- 知的財産・コンテンツ関連教育の推進
- 実践的総合キャリア教育の推進
- 教育効果向上のためのICT活用教育の推進

>>文部科学省：大学教育の充実－Good Practice－

選定理由（文部科学省発表）

本取組は、陶磁器の生産地・消費地の関係にある瀬戸市と名古屋市にあるキャンパスを有効に活用するため、「地域連携センター」を設立して産官学民の連携プラットフォームを効果的に形成するとともに、それに対応した形で経済学部「地域創成プログラム運営委員会」を設置して、実践を意識したスパイラル型プロジェクト学習と段階的学習カリキュラムを巧みに組み合わせることにより継続性を意識した社会人基礎力を涵養することで意欲的な人材育成と地域活性化を狙った意欲的なものであり、本支援プログラムの趣旨にも十分適合するものです。また、その学習成果を他学部にも敷衍することを狙った意欲的な取組です。さらにその準備段階の実績も十分であると認められます。

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

- ▶ TOP
- ▶ 現代GPとは？
- ▶ 地域創成プログラムとは？
 - ▶ 地域創成プログラムの全体像
 - ▶ 人材育成
 - ▶ 地域貢献
- ▶ 特集
- ▶ 派遣講師公開講座
- ▶ イベント開催報告
- ▶ 実施報告書
 - ▶ 「地域創成プログラム」の実践 2007～2009年度 報告書
 - ▶ 「地域創成プログラム」の実践 2008年度事業報告書
 - ▶ 2007年12月22日 選定記念 キックオフ・シンポジウム 実施報告書
- ▶ お問い合わせ

「地域創成プログラム」の実践

～「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流～

地域創成プログラムの全体像

「地域創成プログラム」の全体像



人材育成

人材育成

地域社会と協働するよき市民、よきビジネスパーソン

地域創造

「社会人基礎力」を高め、政策を提案し実践する

地域共生

地域課題を共有し等身大の「経済活動」を学ぶ

地域理解

地域への理解と愛情を深める

地域貢献

生産/流通/消費を一体化した「ものづくり」

- アンテナショップ（名古屋）
- 商品開発

広域連携を軸とした多様な「まちづくり」

- 陶街道交流フェスティバル（物流連携/人的交流）

プラットフォーム形成を通じた「ひとづくり」

- フォーラムの開催
- 活動組織の形成

地域のニーズ

交流拠点再生

- 生産拠点（地場産業再生）
- 物流拠点（陸運・水運）
- 消費拠点（商店街再生）

地域間交流

- ものづくり観光（広域連携）
- 生産・消費ネットワーク（陸運・水運）
- ITによる広域交流（国域交流）

地域資源活用

- 人的資源のデータベース化と活用
- 多様な世代のまちづくりへの参加
- 歴史/文化/産業資源等の活用

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

「地域創成プログラム」の実践
～「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流～

人材育成

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

地域創成プログラムの全体像

人材育成

地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

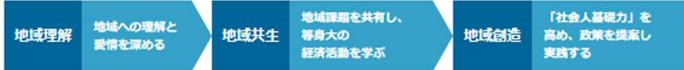
「地域創成プログラム」の実践
2007～2009年度 報告書

「地域創成プログラム」の実践
2008年度事業報告書

2007年12月22日 遷定記念
キックオフシンポジウム
実施報告書

お問い合わせ

教育目標



教育内容

本取組は、1年次からの段階的カリキュラムにより、「地域理解」「地域共生」「地域創造」3つの能力を育てます。

第1段階 地域理解

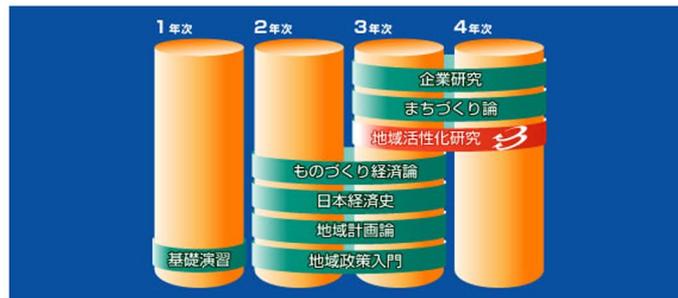
1年生全員（約450名）が受講する基礎演習（2単位）における導入教育です。各担当教員が、地域創成プログラムのガイダンスを行うとともに、ワークショップ形式による体験学習を行います。これによって、本プログラムへの動機づけを行うとともに、「地域理解」を深めます。

第2段階 地域共生

専門授業科目（「地域政策入門」「地域計画論」「ものづくり経済論」「日本経済史」以上全て2単位）の学習です。これらの授業では、地域政策や地域史研究などの学習を通じて、「もの・まちづくり」の概要や関連施策、社会的背景などについての理解をさらに深め、「地域共生」のできる人材育成を行います。

第3段階 地域創造

実践授業科目（「地域活性化研究A・B（いずれも4×2単位）」「まちづくり論（2単位）」「企業研究（2単位）」）の履修によって、「もの・まちづくり」に関するプロジェクトを企画・実践し、「地域創造」のできる人材を育成します。



育てる人材像

産業の高度化や郊外型の大型ショッピングセンターの出現により、ものづくり・まちづくりをめぐる地域の変貌は激しく、かつての生産拠点・消費拠点において地域再生が大きな課題となっています。こうした課題を解決するためには、地域を理解し、共生・創造できる市民の育成が必要です。本取組では、本学が「知の拠点」としての役割を果たし、交流拠点の再生や地域間交流、地域資源の活用などのニーズに対応した人材を育成します。



教育方法

実践型授業を通して「社会人基礎力」といわれる課題発見・解決力、他者と関わる力、結果を生み出すために必要な行動を行う自己効力感の向上をめざします。

1. スパイラル型プロジェクト学習

「地域活性化研究A・B」では、「もの・まちづくり」のフィールドワークで、アンテナショップ運営や海街道交流イベント企画など、ボランティア型からビジネス型までさまざまなプロジェクトを実践します。この授業は、通年4単位で2年間継続履修が可能であり、 SemesterごとのPDS (Plan-Do-See) サイクルによって、より効果的な学習を実現します。この過程で、受講生は、1年目で過去に開発されたプロジェクトを継承し、2年目では、新プロジェクトを開発・実践します。また、上級生による指導や、卒業生による講演・アドバイスも行われます。新プロジェクトの成果は、報告会・パネルディスカッションにおいて発表されます。

2. 見学・講演+ワークショップ型学習

「まちづくり論」「企業研究」では、「もの・まちづくり」に関する見学・講演とその後のワークショップという授業形態により、事業の特徴や関係団体・ビジネスモデルの研究、事業改善提案等を行うことによって、社会にとって必要な実践的知識・能力を学びます。

現代GP

2007年度文部科学省
現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

contents

TOP

現代GPとは？

地域創成プログラムとは？

- ▶ 地域創成プログラムの全体像
- ▶ 人材育成
- ▶ 地域貢献

特集

派遣講師公開講座

イベント開催報告

実施報告書

- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2007～2008年度 報告書
- ▶ 「地域創成プログラム」の実践
2008年度事業報告書
- ▶ 2007年12月22日 選定記念
キックオフ・シンポジウム
実施報告書

お問い合わせ

「地域創成プログラム」の実践
～「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流～

地域貢献

I 具体的成果

「地域創成プログラム」の事業テーマである「もの・まちづくり」の実践によって次の3つの地域貢献をめざします。

生産・流通・消費を一体化したものづくり

瀬戸市での実績を生かし、名古屋市熱田区においても空き店舗を活用し、商店街を活性化します。具体的には、アンテナショップを展開し、商品開発や情報発信を行います。また、バーチャルモールも開設・運営し、ビジネスとしての自立化をめざします。

地域間交流を軸としたまちづくり

瀬戸市と名古屋市との交流をテーマに、ものづくりの歴史・文化を再評価し、地域間交流につながるイベント「陶街道（とうかいどう）交流フェスティバル（仮称）」を自治体と連携して開催します。

プラットフォーム形成・交流を促したものとづくり

瀬戸市同様に、名古屋市熱田区における地域プラットフォームを形成し、多様な世代、多様な関係者からなる顔の見える関係づくりを行い、さまざまなイベント・事業を協力して推進します。また、両地域の交流をテーマにしたフォーラム開催などを通じて、地域プラットフォーム間の連携を強めます。

I 実施体制

本学経済学部地域創成プログラム運営委員会を設置。授業方法の検討と改善を行います。さらに本学では、全学組織として教員と職員からなる「地域連携センター」を設置しています。このセンターは、エクステンション機能のほか、市民活動のコーディネートや実践教育サポート、地域研究機能も有し、地域創成プログラム運営委員会とは、常に情報を共有し連携を保っています。

I 評価体制

地域創成プログラム運営委員会が、プログラムの分析・評価を行い、FD活動を推進します。本委員会には、行政や市民の方にも参加して頂き、地域の声も反映させます。学習の成果については、各段階における達成度をアンケートによって調査・評価します。また、本学地域連携センターが、地域プラットフォームと一体となって、アンケートならびにヒアリング調査等を行い、「もの・まちづくり」事業の評価及び改善を行います。

I 取組の実実施計画

「地域創成プログラム」は、3カ年スケジュールによって「もの・まちづくり」事業と「関連する主な実践教育」を実施します。

1. 「もの・まちづくり」事業

土の系譜である陶磁器産業（ノベルティ、タイル、磁器、衛生陶器等）を中心に、名古屋市・瀬戸市の拠点の再生と交流を通じた地域活性化をめざします。実施される主な拠点及び交流プロジェクトは、(1)「アンテナショップ」開設（名古屋市）、(2)「陶街道交流フェスティバル」（拠点を結ぶ人的・物的な様々な交流事業の総称）の開催であり、これに結びついたさまざまな小プロジェクトを開発・実施します。

2. 関連する主な実践教育

地域創成プログラムでは、第2段階の専門授業において「もの・まちづくり」の概要や社会的背景などの説明を行い、第3段階での実践授業で、さまざまなプロジェクトを企画・実行する過程で、「地域共生・地域創成」を具体的に学びます。また、逸品バーチャルモール、観光マップ等の制作を通じて、地域資源の活用や各商店との関係づくりを行い、「地域産産」開発やアンテナショップ展開へとつなげます。アンテナショップでは、大学の指導・監督のもと、学生が主体となってバーチャルカンパニーを運営し、経営管理を学びます。

3. 取組期間終了後の展開予定

取組期間終了後は、糸の系譜である「織維産業」を次のテーマとして「もの・まちづくり」事業を計画・実施します。その後、木の系譜「木材産業」、先端産業などに対象を広げ、名古屋大都市圏交流ネットワークの構築をめざします。

I これまでの取組

本学経済学部では2001年度より瀬戸市の地域活性化に取り組む「地域創成プログラム」を実践してきました。シャッター通りであった瀬戸市・銀座通り商店街は再生し、経済産業省「がんばる商店街77選」に選ばれました。本取組は、この活動を陶磁器産業を軸とした生産地（瀬戸市）・消費地（名古屋市）の拠点再生と交流プロジェクトに発展させるものです。



携帯アクセサリー「赤津七槍セット」開発（2003年）



「瀬戸銀座一点逸品バーチャルモール」企画運営（2004年）